

5月12日(火)

聖書はあなたを変えていますか

聖書朗読 ルカの福音書 17:3～4

神のことは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。

ヘブル 4:12

学生の頃、私はある男性が害虫に変身してしまうという変わった本を読みました。(編注:カフカの代表作、『変身』)とても印象に残る話で、今でもゴキブリを踏みつぶす前には(もちろん叫んだ後で)ためらいがあります。それほど強く心に残る話でした。

では聖書はどうでしょうか。私たちは聖書を一応勉強しなければならない教科書のように扱っているでしょうか。それとも、生きたみことばとして受け取っているでしょうか。

今朝、私は赦しについての箇所を読みました。その後、私は妻とちょっとした言い争いをしました。妻は謝り、私も謝りました。しかし、心の中はモヤモヤしたまま座っていました。その時、先ほど読んだばかりのみことばを思い出しました。するとすぐに私の心は穏やかになりました。私の態度は変えられました。神様のみことばが私の心の中で働いたのです。

毎日このように感じられるわけではありません。聖書を読んでもすぐに変化が見えないこともあります。しかし、それでも、みことばは働いています。種は私たちが実を見る前に地中で静かに育っています。

さて、聖書はあなたに影響を与えていますか。聖書は、あるときにはすぐに、またあるときはゆっくりと、しかし、いつも力強く働いています。

讚美歌第二編 105 主よ みことばもて

祈り 主よ、あなたの力強いみことばに感謝いたします。ただ聖書を読むだけでなく、私たちが変えられるように助けてください。私たちの心が穏やかになり、赦し、変えられていきますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

テキサス州 アービング / ブライアン・ヒューメック

5月13日(水)

二度と渇かない

聖書朗読 ヨハネの福音書 4:10～15

しかし、わたしが与える水を飲む者はだれでも、決して渇くことはありません。わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。 ヨハネ 4:14

私が小学生だったころ、休み時間の後には、廊下の一つしかない水飲み場に行列ができていたものです。どんなに暑くても、どんなに喉が渇いていても、生徒はみな、先生が「おしまい」と叫ぶまで、生ぬるい水を2口、3口がぶ飲みすることしか許されていませんでした。

今では、たいてい生徒一人ずつが自分の水筒を持参しています。有名ブランド物や、名前やシールを貼ったり、好きな色だったりする水筒です。現代では水分補給は一日を通して推奨されていて、新鮮で冷たい水はいつでも手の届くところにあります。

聖書の時代、水はとても貴重で簡単に手に入るものではありませんでした。井戸に来たサマリヤの女も、重い水がめをかついで、遠くから水を汲みに来て、1日に汲める量は制限されていたことでしょう。

イエス様はその女に驚くべきことを語られました。『わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。』それは決して尽きることなく、古びることもなく、私たちの魂の深い渇きを満たす水です。霊的に二度と渇くことがなくなることを想像してみましよう。それは、私たちに生ける水を与えるために、いのちを捧げられたイエス様によるのです。

リビングプレイズ 69 谷川の流れをしよう 鹿のように

祈り お父様、あなたの御子イエス様を通して、私たちに命を与えてくださって感謝いたします。私たちに必要なものをすべて満たしてくださることを感謝します。特に私たちの魂の渇きを満たしてくださることを感謝します。イエス様のお名前によって。アーメン。

テネシー州 マクウェン / シャロン・フォースター

5月14日(木)

私たちの帰る場所

聖書朗読 ヨハネの福音書 7:14~24

しかし、祭りもすでに中ごろになったとき、イエスは宮に上って教え始められた。

ヨハネ 7:14

私の人生で嬉しかったことの一つは、家に帰って「パパのお帰りだよ」と迎えられることでした。息子たちは、私がまるで長い旅から帰ってきたかのように走ってきて、足に抱きつきました。ドロシー・ゲイル(訳注:《オズの魔法使い》の主人公)が言った通りです。“我が家にまさる場所はない”ヨハネの福音書7章は仮庵の祭り期間中のエルサレムの場面です。神様はユダヤ人に、不従順のために荒野でさまよった四十年間を思い起こすために、祭りの間、仮庵を建ててそこに住むようにと命じられました。祭りはまた、将来を指し示すものでもありました。仮庵の屋根は木の枝で簡素に作られ、隙間から天空が見えるようになっていました。それは自分たちがこの世を通り過ぎる旅人であることを思い起こさせるものでした。

ユダヤ人は、イエス様が律法に通じていることに驚きました。しかし私たちは、神様が人となって来られたことに驚きます。永遠なる神様が、私たちに永遠のいのちを与えるために、一時的なからだを取られたのです。それが神様のみこころなのです。人生で最も素晴らしいことは、家に帰ったときに、「よくやった。良い忠実なしもべだ」と言われることでしょう。

讚美歌 288 たえなる みちしるべの

祈り お父様、あなたのみことばが人となって、私たちの間に住まわれたと読むとき、深い感動を覚えます。私たちがあなたと一緒にいられる場所を与えてくださったことに感謝いたします。この世のいのちが一時的なものであること、永遠のいのちが確かなものであることを理解できるよう助けてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

テネシー州 ナッシュビル / ジョシュ・バーネット

5月15日(金)

閉じた目と耳

聖書朗読 ヨハネの福音書 7:45~52

この民の心は鈍くなり、その耳は遠く、目はつぶっているからである。それは、彼らとその目で見、その耳で聞き、その心で悟って立ち返り、わたしにいやされることのないためである。

マタイ 13:15

自分の考えに固執して、目の前の真実を受け入れようとしなかったことはありませんか。それがまさにユダヤの指導者たちの姿でした。群衆は分裂していましたが、指導者たちはイエスはキリストではないと決めつけていました。怒りにまかせて彼らは侮辱し、役人たちを退け、人々を嘲り、さらにニコデモに対しても非難しました。

イエス様のなされた奇跡も、お言葉も、そしてご性質そのものが明らかな証しでした。それにもかかわらず、彼らは目を閉じ、耳をふさいだのです。そしてそれは、私たちにも当てはまり得ることです。みことばが私たちの罪を明らかにするとき、私たちはへりくだって変わらなければならないと認めるよりも、他人を批判したり、自分を正当化したりしてしまいます。

しかし、『神のことばは生きていて、力があり』ます。(ヘブル 4:12)それは私たちの言い訳を差し貫き、心を露わにします。それは私たちが責めるためではなく、癒すためです。もし私たちがみことばに委ねるなら、聖霊は私たちの目を開き、心を柔らかくし、私たちがキリストに似た者へと変えてくださいます。

ともにうたおう 24 キリストのように考え

祈り 聖なるお父様、あなたは私たちの奥深くをご覧になります。私たちのすべてを知りながらも、それでも私たちを愛してくださいます。私たちの目と耳と心、思いを開き、あなたに似た者となれますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

サウスカロライナ州 ミュレルズ・インレット / ジーナ・ゴードン

5月16日(土)

仕出かしてしまったこと

聖書朗読 ヨハネの福音書 8:10~11

すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、ただ神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。

ローマ 3:23~24

労働者の日(アメリカの祝日)の週末が過ぎていきました。8歳から78歳の三世代が一つ屋根の下で三日間共に過ごしました。食事をし、ゲームをし、物が壊れることもありました。笑い口論が飛び交い、解決したり、そのままだったりしました。家族一同の賑やかで喜びに満ちた素晴らしい時でした。

みんなが帰った後、ベッドの後ろには丸められた洋服や、忘れられた玩具、隠された食べ物、部屋のあちこちに置き去りにされた荷物が見つかりました。たくさんめちゃくちゃな物が残されていました。

片付けをしながら、私は自分の人生のこと、自分が仕出かした“めちゃくちゃなこと”について考えました。私たちにはみな消してしまいたいと思うようなことがあるのではないのでしょうか。時は戻せませんが、私たちは悔い改めて、もう一度神様に自分の人生をお捧げすることはできます。

ヨハネ8章ではこの女の罪について詳しくは語られていません。私たちが知っているのは、イエス様が告発以上に彼女の心をご覧になったということです。イエス様は彼女を責めることはなさらず、恵みを与え、新しい生き方をしようとおっしゃいました。『行きなさい。今からは決して罪を犯してはなりません。』

この同じ恵みが世紀を超えて私たちに届いています。私たちが何を仕出かしたとしても、イエス様は私たちに赦しと自由、新しい始まりをくださいます。

聖歌 593 つみにみてるせかい

祈り 慈悲深い主よ、私の失敗を見ごし、恵みを与えてくださって感謝いたします。あなたの赦しの中で歩み、日々新しい人生を歩むことができるように助けてください。イエス様のお名前によって。アーメン。

オクラホマ州 タレクア / コニー・エドワーズ

5月17日(日)

人のことばに向き合うとき

聖書朗読 ヨハネの福音書 10:31~42

愛は寛容であり、愛は親切です。

I コリント 13:4

ベンジャミン・フランクリン(編注:アメリカ合衆国建国の父のひとり)はこう言いました。「この世で確実なことは、死と税金だけだ。」私はもう一つあると思います。それは非難です。私たちはときに、他人の言葉に、上司、伴侶、近所の人、友人、家族、さらには見知らぬ人からの言葉にも心を痛めることがあります。求めている評価や、勝手に良くないと思いついでいることに対する“役に立つアドバイス”が、かえって私たちを傷つけるものです。そのようなとき、私たちはどのように応答したら良いのでしょうか。イエス様の例を見てみましょう。

ヨハネはユダヤ人たちが、イエス様の神性と、安息日に行われた癒しについて、イエス様を非難した時のことを書いています。その時、イエス様は恵みと知恵をもって応じられました。ご自身のみわざが証しであることを静かに示されたのです。怒らず、叫ばず、弁解することもなく、真理の上をしっかり立っておられました。言い終えて、ただその場を立ち去られました。

次に私たちが非難を受けるときには、このイエス様の例を思い出しましょう。愛と親切を持って応答しましょう。非難する人にも親切に接し、必要であれば受け止め、そして前に進みましょう。非難によって主にお仕えすることから離れてしまわないようにしましょう。

讃美歌 389 ^{あだ}敵を愛せよとの

祈り 愛する主よ、あなたが私を愛してくださっているように、私も周りの人を愛することができるよう助けてください。イエス様のように、非難に対して思いやりと知恵、あわれみをもって応答することを教えてください。たとえその言葉が私を傷つけても、静かに、落ち着いて、親切でいられますように。イエス様のお名前によって。アーメン。

テネシー州 ナッシュビル / ポール・デアティ